

# 令和3年度 事業計画書

学校法人 学習院

## はじめに

学校法人学習院は、平成 29（2017）年度から令和 3（2021）年度までの 5 か年を実施期間とする中期計画として『学習院未来計画 2021』を策定し、全体目標として、

- I 学習院の歴史と時代の要請を踏まえた教育改革
- II 学習院の総合力を発揮するための学校間連携の強化
- III 教育の質をたゆみなく向上させるための環境整備

の 3 つを掲げ、その下に院内各学校と法人本部等がそれぞれの目標を定めました。

事業計画書は『学習院未来計画 2021』との連動性を踏まえ、院内各学校と法人本部等がそれぞれ中期計画の目標の達成を視野に入れて、令和 3 年度に取り組む内容を取りまとめたものとなっています。

令和 3 年度は『学習院未来計画 2021』の 5 年計画の最終年度となります。

令和 2 年に入り、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を受け、国内外の経済や観光等が多大な影響を受ける中、令和 2 年 4 月には緊急事態宣言が出され、秋以降は感染者拡大の第 3 波が訪れるなど予断を許さない状況が続いています。

学習院の各学校や法人本部等においては、予定していた取組みが中止や縮小を余儀なくされるなど大きな影響が出ました。しかし、学習院では、大学・女子大学における授業料減免や遠隔授業実施に係る環境整備のための支援金、高等科から幼稚園においては対面授業再開のための感染対策物品の配備など、学生、生徒、児童、園児の安全を確保しながら、学修が滞らないよう努力をしております。

こうした状況がいつまで続くか見通せないなど、令和 3 年度は予測不可能な中で事業運営を行うこととなります。こうしたときだからこそ、学習院の各学校・法人本部等は、一貫教育の強みを発揮し、引き続き、学生、生徒等の安全を第一に考えながら、それぞれの取組みを着実に進め、『学習院未来計画 2021』の目標達成に向け、各計画の実現に向けて全力を注いでいきます。

令和 3 年度事業計画においては、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じながら、これまでの事業を着実に実施します。大学では、教育研究や国際交流、地域貢献、産学官連携等を推進します。高等科、中等科、女子中・高等科、初等科、幼稚園では、それぞれの特徴を生かしたカリキュラムによる教育・保育を実施します。これらの取組みにより、『学習院未来計画 2021』の達成を目指します。

さらには、ニューノーマル（新しい日常）を見据え、令和 4 年度からはじまる新しい中期計画の策定も進めます。

学校法人学習院は、令和 9（2027）年の創立 150 周年に向けて、躍動する明るい学園とするため、令和 3 年度も着実に前進してまいりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

## 1. ファカルティ・ディベロップメント (FD)、スタッフ・ディベロップメント (SD)の推進

【学習院未来計画 2021】1. 教育支援の充実

【学習院未来計画 2021】11. スタッフ・ディベロップメント (SD)の推進

FD<sup>1</sup>推進委員会における「学生による授業評価アンケート」を活用した全学的な取組みを引き続き実施発展させるとともに、IR<sup>2</sup> オフィス実施の「在学生調査」、「卒業生調査」、「新入生アンケート」の集計・分析結果について、授業改善・カリキュラム改編や、FD・SD<sup>3</sup> 活動の推進に向けたより実践的な活用を図ります。

また、多様なFD・SDのメニューを用意するとともに、対面式だけでなく多様な実施方法を取り入れることで、教職員の資質の向上を図ります。

## 2. ラーニング・サポート体制の充実

【学習院未来計画 2021】1. 教育支援の充実

これまで実施してきた「聞く」、「話す」、「書く」、「読む」の4技能についての様々なセミナーを引き続き企画・実施するとともに、コロナ禍における新たな学修支援の在り方についての検討を行います。

常設組織となったラーニング・サポートセンターにおいて、他の学生支援業務と連携した有機的な支援活動を推進します。

## 3. ラーニング・マネジメント・システムの一本化による教育の質の保証及び向上

【学習院未来計画 2021】1. 教育支援の充実

ICT利活用の促進による教育の質の保証及び向上を目的に、ラーニング・マネジメント・システム<sup>4</sup>の全学統一化を進め、学生及び教員の利便性の向上、学生の学修履歴の蓄積を目指します。

## 4. 総合基礎科目見直しの検討

【学習院未来計画 2021】2. 語学教育を含む教養教育の見直し・再編

総合基礎科目見直し検討委員会及び基礎教養科目運営委員会を発展的改組・統合した新たな全学共通教育を管理運営する組織を設置し、令和4年度の全学共通教育の開始を目指し、具体的な全学共通科目の検討を進めます。

また、令和元年度の総合基礎科目見直し検討委員会からの答申を受け、準備を進めていた

<sup>1</sup> ファカルティ・ディベロップメント 大学の授業改革のための組織的な取組み。

<sup>2</sup> Institutional Research の略。大学内の様々な情報を収集して、数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営等に活用すること。

<sup>3</sup> スタッフ・ディベロップメント 事務職員や技術職員など職員（教員を含む）を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組み。

<sup>4</sup> 学習管理システム (LMS : Learning Management System)。学習者の登録や教材の配布、学習の履歴や成績及び進捗状況の管理、統計分析、学習者との連絡等の機能がある。

英語カリキュラムの改編について、令和 3 年度より新たな英語カリキュラムにて実施します。

## **5. 入学者選抜制度の改革等**

### **【学習院未来計画 2021】 3. 入試改革**

大学独自の入学者選抜に加え、令和 2 年度から導入した「大学入学共通テスト」<sup>5</sup>を利用し、多面的・総合的な学力の評価に対応した選抜を実施します。これにより、受験生の実力をより幅広い視点から測るとともに、全国の受験生により広く受験機会を提供することで、一層多様な価値観を持った学生が集まる環境を目指します。

## **6. 世界展開力の強化**

### **【学習院未来計画 2021】 4. 国際化の一層の推進**

「国際センター」を中心に実施している短期研修制度や協定留学については、現地での研修を想定していますが、新型コロナウイルスの感染状況に応じ、オンラインによる研修も含めてフレキシブルに対応したいと考えています。

また、海外大学から受け入れる協定留学生については、オンライン履修のシステムを提供しつつ、日本への渡航を伴う留学ができる状況となった場合には、入国前後の体調管理等を業者委託することで安心して本キャンパスで学ぶことができるよう、受入態勢を整えています。そして、海外から本学へ協定留学生が留学できた場合には、協定留学生と本学学生が目白キャンパスにて共に学ぶ「多文化共修」を基礎教養科目の授業として新たに実施し、多文化理解や国際化について学ぶ機会を提供します。

さらに、国際センターでは、コロナ禍にあっても、北米をはじめとする海外の大学協定校の新規開拓を継続し、留学先の多様化を推進します。

なお、協定外（私費）留学については、令和 3 年度第 1 学期までは渡航を伴う留学を中止することとし、第 2 学期以降は状況に応じて判断する予定です。

国際社会科学部では渡航を伴う海外研修の再開の時期を探りながらも、令和 2 年度よりオンラインによる短期海外研修プログラムを独自に実施しており、改善を図りながら継続していく予定です。

コロナ禍においても、学生のグローバル化への意識が低下しないよう、様々な工夫をしながら事業を実施することとします。

## **7. キャリア教育と就職活動支援の連携**

### **【学習院未来計画 2021】 5. 学生生活支援の充実**

キャリア教育については、全学部横断の基礎教養科目を継続して開講するとともに、次年度へ向けて、全学共通科目の見直しの中で更なる科目の充実を図ります。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により増加する、採用面接のオンライン面接化に対応したセミナー等を引き続き実施します。

キャリア支援については、感染症や景気変動等の状況を見ながら、年間スケジュールも柔

---

<sup>5</sup> 独立行政法人大学入試センターによって行われる大学入試センター試験に代わり、令和 2 年度より導入された大学の共通入学試験。

軟に対応し、学生の活動状況や企業の採用スケジュール、また社会の変動にタイムリーに対応したセミナー等が実施できるようきめ細やかな支援を行います。

## 8. 奨学金の拡充と検証

### 【学習院未来計画 2021】 5. 学生生活支援の充実

奨学事業については、令和3年度も継続して対象校として認定された「高等教育の修学支援新制度」<sup>6</sup>による授業料等減免措置の利用に加え、本学独自の奨学事業により、引き続き、きめ細やかな支援を実施します。あわせて新型コロナウイルス感染症のみならず、自然災害も含め、国からの支援制度を活用し、経済的理由による退学者を出さないよう、支援に努めます。

## 9. 教学マネジメントの確立と IR 機能の充実

### 【学習院未来計画 2021】 6. 教学マネジメントの強化

内部質保証システムにおける教学 IR の役割を可視化するとともに、IR オフィスによる各種調査・アンケート結果の分析・共有や Tableau<sup>7</sup> 活用の試行を継続することで、教学マネジメントの改善・強化に向けて取り組みます。

## 10. 事務組織の見直し

### 【学習院未来計画 2021】 6. 教学マネジメントの強化

コロナ禍に於けるオンライン授業運営への対応とともに、学修支援、教育開発組織のあり方については、引き続き大学内で検討します。また、研究支援組織については、URA<sup>8</sup> の活用方法も含め、どのように体制を整えるか、研究支援センターを中心に検討します。

## 11. 「超高齢社会への新たなチャレンジ～文理連携型<生命社会学>によるアプローチ～」の推進

### 【学習院未来計画 2021】 7. 研究活動の活性化

これまでの研究実績を活用し、生命分子科学研究所と基礎物性研究センターが共同で、「生命社会学」「地球環境の診断」「エネルギーの効率的利用による持続可能社会の実現」などを想定した「文理融合が導く先端研究による人間中心の社会の実現」を推進します。令和3年度は、他大学・研究機関と共同で開催する2回のシンポジウムと社会への研究成果の還元を志向したアウトリーチ活動としての1回のシンポジウムをそれぞれ開催する予定です。

## 12. 地域連携の拡充

### 【学習院未来計画 2021】 8. 地域連携の拡充

「としまコミュニティ大学」への科目提供、豊島区在住の外国人を対象とした「日本語教

<sup>6</sup> 「大学等における修学の支援に関する法律」に基づき、低所得者世帯であっても、社会で自立し活躍できる人材を育成する大学等に修学できるよう経済的支援を行う制度（授業料等減免・給付奨学金）。

<sup>7</sup> 教学データを共有のダッシュボードに可視化し、各ユーザーがグラフ等を自由に操作できるツール。

<sup>8</sup> University Research Administrator の略。大学において研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材。

室」など、これまでの取組みを継続して実施するとともに、令和2年度に内閣府から「SDGs 未来都市」に選定された豊島区などとの地域連携を更に推進します。

### 13. 産学官連携の推進

#### 【学習院未来計画 2021】 9. 産学官連携の拡充

研究支援センターにおいては、URA の充実を図ることにより、研究戦略の検討を進めることとします。研究タイトル別に研究シーズ事例を閲覧することのできる研究シーズ集の充実を図り、研究情報を発信することにより、本学の研究成果と企業とを結びつけます。

### 14. 研究力強化の推進

#### 【学習院未来計画 2021】 9. 産学官連携の拡充

本学の研究力強化を目的に、研究人材改革として「若手研究者支援パッケージ事業」、研究資金改革として「科研費ステップアップ支援事業」、「国際研究論文掲載経費補助事業」、研究環境改革として「学術データベース『Web of Science』導入事業」を学校長裁量枠事業予算にて試行的に実施します。

### 15. 学習院高等科・女子高等科、並びに協定締結校との連携強化

#### 【学習院未来計画 2021】 10. 高大接続改革の推進

例年実施している出張講義や授業聴講、科目等履修制度は、新型コロナウイルス感染症の状況を勘案しながら、実施方法等を検討します。また、協定締結校とは、双方での状況を確認しながら、連携方策を模索していきます。

### 16. 中長期計画の策定

ビジョン（2039 年度末におけるあるべき姿）の実現に向けた中長期の全学の方針及び重点施策に基づき、全学の年度計画及び各部門の中長期計画等を策定します。

## 女子大学

### 1. コロナ禍のもとでの高品質な教育の継続

コロナ禍に係る大きな不確実性が当面は継続すると予想される中で、感染防止対策を徹底的に講じつつ、また感染リスク等の観点から登校を望まない学生へ配慮しつつ、可能な限り対面授業を中心とした授業運営を図っていきます。また、令和2年度の遠隔授業の実施を通じて、海外との同時授業や国際機関からの授業等についてオンライン授業の優位性が強く示唆されたことなどを踏まえた、ポストコロナに向けた対面授業と遠隔授業の適切な組み合わせも検討していきます。さらに対面授業のオンライン配信のための教室カメラの設置など、必要な設備投資を図るとともに、遠隔授業の導入を契機に大きく前進した LMS（Learning Management System）の活用をより積極的に推進していきます。

## **2. 新たな中期計画の策定と内部質保証システムの強化に向けた外部評価制度の導入**

### **【学習院未来計画 2021】 1. カリキュラム編成の見直しと教育力の強化**

本学が内部質保証の基盤と位置付ける中期計画は、法人中期計画と強く連動しています。令和 4 年度からの新たな法人中期計画の作成と同時に本学の中期計画も改訂します。平成 31 年 3 月の大学基準協会の認証評価<sup>9</sup>の結果や、平成 29 年度から開始した新しい内部質保証システムに基づく自己点検の結果等を踏まえた中期計画を策定します。

さらに、令和 2 年度にその詳細を確定させた外部評価を並行的に実施し、新たな中期計画に結果を反映させることとします。また、教職課程については、独自の自己点検・評価を実施するとともに、第三者評価を令和 4 年度に実施すべくその準備を進めます。

## **3. リベラルアーツ教育を中心とした「教育力」の更なる充実**

### **【学習院未来計画 2021】 1. カリキュラム編成の見直しと教育力の強化**

本学では、1、2 年生の間に多様な分野を履修した後、3 年生から専門性を深めていく教育システムを採用しています。一般に「リベラルアーツ」教育と称されるこのような方式を更に充実させることを目指して、令和 3 年度も様々な取組みを並行的に進めます。

本学ならではのリベラルアーツ教育のあり方について検討を行うため、令和 2 年度に続いて講演会を開催するとともに、それらの成果を学内外で共有します。

また、このように理念を明確化する取組みに加えて、リベラルアーツ教育の学修成果を可視化するための方法論を令和 2 年度に確立したことを踏まえて、その推進を図ります<sup>※</sup>。

更に、リベラルアーツ教育の学際性を具現化する取組みとして、平成 30 年度に本学専任教員 12 名で作成した現代日本に関する英語によるテキスト「Kaleidoscopic Views of Japan」を活用したオムニバス形式の英語授業、並びにジェンダーに関する分野横断型の講義を令和 3 年度も引き続き実施します。

加えて、本学リベラルアーツ教育の一環として位置付けられる日本文化学科、国際コミュニケーション学科における「コース登録制度」<sup>10</sup>が令和 2 年度に 3 年生になった学生から適用されることを踏まえて、同制度の不断の検証、改善のプロセスを着実に推進します。

## **4. 単位の実質化のための取組みの強化**

### **【学習院未来計画 2021】 1. カリキュラム編成の見直しと教育力の強化**

単位の实質化を図る一環として令和 2 年度の秋学期に導入した、学期最初の 1 週間を各科目の課題等の説明にあて、それを全科目について遠隔で実施する方法の継続を検討します。これにより、授業外に必要な時間を考慮して適切な履修計画を策定することで単位の实質化を強化しようとするものです<sup>※</sup>。

---

文中※は女子大学の認証評価の結果を踏まえた取組みです。

<sup>9</sup> 学校教育法により、大学は文部科学大臣の認証を受けた評価期間による認証を7年以内に受けることが義務付けられている。

<sup>10</sup> 1～2 年生は、幅広い学問分野に関する基礎的な科目を履修し、研究方法、語学力等を養い、それを踏まえ3 年生からは学生が自ら見出した学問的関心に応じた専門領域としての「コース」を選択し、その分野の専門性に沿った学びを進める。

## 5. 留学生の送出しと受入れの一層の強化

### 【学習院未来計画 2021】2. 国際化の一層の推進

留学生の送出しと受入れは、本学の国際化戦略上「車の両輪」であり、コロナ禍により全面的に中断した送出し及び部分的な水準にとどまった受入れの、本来の水準への早期復帰を図ります。

送出しの仕組みとしては、留学希望者に対するアンケートを令和元年度に引き続き実施し、留学支援のより効果的な方法を検討するとともに、留学制度や英語外部試験の受験助成制度について、早期の情報提供を徹底します。また、協定大学が提供する語学プログラムの本学での単位認定を可能とすることにより、留学のきっかけを提供することの是非について検討を行います。また、コロナ禍の状況に応じて、オンラインでの協定校留学も進めることにより、学生に可能な限りの留学の機会を提供します。

受入れの取組みとしては、令和2年度秋学期に続き、コロナ禍にあっても希望する留学生の受入れを進めます。なお、留学生の入国に係る負担を軽減し安心して来日できるようサポート体制の一層の強化を図ります。また、「Kaleidoscopic Views of Japan」を使用する英語講義の留学生への開放を継続するとともに、日本語授業の拡充の検討により、日本語能力が十分ではないが、本学への留学意欲の強い受入れ学生への対応を強化します。加えて、令和元年度に新設した受入れ留学生向けの戦略的な奨学金制度の協定大学への周知に努めます。

## 6. 海外に触れる機会の拡充

### 【学習院未来計画 2021】2. 国際化の一層の推進

令和2年度には、多くのプログラムを中止・中断せざるを得なかったなかで、キャンパスで海外を経験することを可能とするカナダ・レスブリッジ大学との同時授業や国際機関職員による講義は、遠隔授業の特性を活用して積極的に実施しました。また、現代日本社会における英語によるオムニバス授業も海外の協定留学生がオンラインで受講するなど、コロナ禍のもとでも海外に触れる機会を拡張したことを踏まえて、コロナ禍後も遠隔授業の活用を拡大を図るとともに、新たな「触れる機会」の構築を検討していきます。

短期海外研修制度については、コロナ禍後の再開を目指しつつ、それが困難な場合、何らかの代替的な方策も併せて検討します。

## 7. エビデンスに基づく全学的な英語教育の強化

### 【学習院未来計画 2021】2. 国際化の一層の推進

令和元年度より実施してきた TOEIC® OLPC<sup>11</sup> プログラムについて、その効果を分析し、今後の英語力向上のための対策検討に活用します。あわせて TOEIC500 点未満学生に係る調査分析を行います。

<sup>11</sup> TOEIC® Official Learning and Preparation Course TOEIC テストを作成・監修している ETS が公認する世界で唯一のオンライン学習システム。



## 8. 高大連携と入試改革

### 【学習院未来計画 2021】 3. 高大接続改革に伴う入試改革

令和3年度入学者向けの入試については、「大学入学共通テスト」を導入しないこととしました。一方で、一般選抜B方式において2教科（国語と英語）のみとなっていること、一般選抜A方式において選択科目が世界史又は日本史のみとなっていること、本学リベラルアーツ教育の趣旨に照らしての適切性については引き続き検討を行い、改革が必要な場合、早期にそれを実施します。

高大接続の観点からは、令和元年度から開始した高大連携セミナーを令和2年度は中止せざるを得ませんでした。令和3年度には復活させ高校教員と本学教職員が高大連携の意義や必要性についての共通理解の構築を図ります。また、平成29年度から開始した、一つのテーマを複数の専門分野の視点により解釈することにより、リベラルアーツ教育の意義を伝えることを目的とする本学独自の「総合型模擬授業」を引き続き積極的に提供していきます。さらに、本学のリベラルアーツ教育と親和性の高い高校との連携を図っていきます。

## 9. 戦略・IR機能の強化

### 【学習院未来計画 2021】 4. 企画・調査部門の充実とスタッフ・ディベロップメント（SD）の推進

教育研究活動を戦略的に強化するために、エビデンスベースの意思決定を可能とする体制整備を引き続き図っていきます。令和2年度に積極的に推進した事務部門のテレワークを契機とした業務のデジタル化を強力に進めていきます\*。

## 10. 研究教育環境の向上

### 【学習院未来計画 2021】 5. 研究・教育環境の向上

令和2年度に新築した1号館に続き、令和3年度末には4号館の耐震改修工事が完了します。それにより、キャンパス内の教育研究環境が大きく改善されるとともに、4号館に新たに設置される資料の収蔵庫や実習室の利用を開始します。さらに、博物館実習や教員の研究成果等を発信する第二展示室の開設準備を完了させ、学習院の女子教育等に関わる資料を展示する第一展示室の開設準備を開始します。

学生に対する教育支援の観点からは、講義形式の各種補講の実施等、ラーニングサポートルームの今後の活用についての検討を進め、持続的な学習支援システムの構築を図ります。また図書館のオンラインチュートリアル機能拡充や、新型コロナウイルス感染症への配慮をしながらラーニングコモンズ空間<sup>12</sup>の環境整備等を引き続き進めます。

研究活動支援については、既に実施している特別研究費の申請と日本学術振興会科学研究費助成事業申請を関連付ける方策等に加えて、科学研究費獲得のためのより直接的な支援策を検討します。

<sup>12</sup> 図書館などに設けられる、総合的な自習学習のための環境。IT機器や学習スペースなどを備え、書籍の閲覧だけでなく、グループ学習や討論会など様々な学習形態の活用に対応する。

## 11. ジェンダーに係る共通理解の醸成

### 【学習院未来計画 2021】 5. 研究・教育環境の向上

ジェンダーに関する様々な課題を適切に理解し、それに基づいた行動をとることは、多様性を包摂する社会の中で、人が生涯を通じて豊かな時間を送るために重要な事項であり、学生がそのような理解を持つことができるような環境を整備することは、女子大学としての本学にとって極めて重要な課題と考えます。そのため、ジェンダーに係る課題の共通理解醸成のための取組みをより体系的なものにするために、令和 2 年度に実施できなかった講演会などを開催するとともに、受験資格についての見直しの検討を開始します。

## 12. 外部に開かれた文化活動の充実

### 【学習院未来計画 2021】 6. 外部に開かれた文化活動の充実

令和 4 年 3 月に完了予定の 4 号館耐震改修工事によって同館にあらたに設置される展示室について、外部に開かれた文化活動の一つとして捉えて、4 月からの第二展示室開室のための必要な準備を完了させるとともに、第一展示室について資材の購入を開始し、令和 6 年度末の開設に向けた準備を計画的に進めます。また、文化交流ギャラリーでの展示、学内での多様な講演会、英国劇団公演、エコサイエンス教室など学外に開放している企画をコロナ禍の状況を見ながら従前の水準で復活させます。さらに、国際学研究所による国際フォーラム「21 世紀アジア太平洋時代の日米関係」を開催します。

また、教員の社会貢献、地域連携活動について網羅的に情報を収集し、それを公開すること等により、それらの活動をより活性化させます。既に包括連携協定を締結している新宿区以外の地域とは将来的にむけた試行的な連携を継続します。

## 高等科・中等科

## 1. カリキュラム改訂に向けた科内での検討

### 【学習院未来計画 2021】 1. 学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂

中等科における新たな学習指導要領<sup>13</sup>への対応を円滑に実施します。

令和 2 年度に作成した ICT 環境整備 3 年計画に基づき、電子黒板機能搭載プロジェクターを全教室に配置することとし、令和 3 年度は初年度として、ホームルーム教室全 30 室に整備します。プロジェクターの導入・活用により、生徒の情報活用能力向上に努めます。

## 2. 院内各校との連携強化

### 【学習院未来計画 2021】 2. 院内各校との連携強化

出張講義・授業聴講・科目等履修生制度の実施など大学との連携や、初等科・幼稚園への留学生あるいは留学経験者による訪問などを実施し、引き続き連携を図っていきます。コロナ禍にあり、実施にあたっては、令和 2 年度と同様にオンラインの活用など工夫をしながら

<sup>13</sup> 文部科学省が告示する初等教育及び中等教育における教育課程の基準。2017 年 3 月に改訂され、小学校は 2020 年度、中学校は 2021 年、高等学校は 2022 年度から全面実施。

進めていきます。

### **3. 教職員の連携と協力体制の構築、業務の負担軽減**

#### **【学習院未来計画 2021】 3. 教員の授業コマ数と教職員配置の適正化に向けた検討**

これまでの取組みを踏まえ、次期中期計画に向けて、働き方改革を含めた職場環境の改善に向けた取組みを策定します。

### **4. 国際化の一層の推進**

#### **【学習院未来計画 2021】 4. 国際化の一層の推進**

米国（ハワイ）プナホウスクールでの SGLI（Student Global Leadership Institute）プログラムや、米国セントポール校（協定校）やニュージーランドキングズカレッジ校との交流等を推進します。実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症にかかる外務省・文部科学省等の通知・通達、協定校との情報交換を踏まえ、生徒等の安全を第一に考えた実施を心がけます。

また、これまで交流してきた相手校とはオンライン交流や文通交流を行い、国際交流の新たな機会の提供を検討します。

### **5. 施設の拡充**

教室の冷暖房システムを追加整備するなど、生徒の学習環境の整備を進めます。

## **女子中・高等科**

### **1. カリキュラム改訂に向けた科内での検討**

#### **【学習院未来計画 2021】 1. 学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂**

女子中等科における新たな学習指導要領への対応を円滑に実施します。

ICT 機器の利用頻度が増え、また、新型コロナウイルスの感染防止のためにオンラインによる学習活動も増加し、これまでに導入したプロジェクターや iPad が損耗しているため、機能的かつ量的な不足に対応した、更なる ICT 環境の整備を図ります。

### **2. 院内各校との連携強化**

#### **【学習院未来計画 2021】 2. 院内各校との連携強化**

出張講義・授業聴講・科目等履修生制度の実施など大学・女子大学との連携や、初等科・幼稚園への留学生あるいは留学経験者による訪問などを実施し、引き続き連携を図っていきます。コロナ禍により、実施にあたっては、令和 2 年度と同様にオンラインの活用など工夫をしながら進めていきます。

### **3. 教員の授業コマ数の検討**

#### **【学習院未来計画 2021】 3. 教員の授業コマ数と教職員配置の適正化に向けた検討**

これまでの取組みを踏まえ、次期中期計画に向けて、働き方改革を含めた職場環境の改善

に向けた取組みを策定します。

#### 4. 広報体制の一層の強化

##### 【学習院未来計画 2021】 4. 広報体制の一層の強化

都内私立女子中学校 9 校による合同説明会「女子校アンサンブル」やオープンスクール、学外の説明会による入試広報を引き続き実施することとしています。また、令和 3 年度入試より導入したインターネット出願については今後も活用し、受験生の負担の軽減に努めます。

#### 5. 父母保証人のライフサイクルの変化への対応

##### 【学習院未来計画 2021】 5. 父母保証人のライフサイクルの変化への対応

生徒や父母保証人に対するカウンセリングについては、コロナ禍においても、メールやオンラインで行うなど継続して実施します。また、カフェテリアの設置については、ニューノーマルにおける食の在り方も視野に入れ、次期中期計画において継続して検討を進めます。

#### 6. キャンパスの環境整備

戸山キャンパスの緑地整備に努めます。また、生徒の学習環境の整備の一環として、生徒が自由にかつ多様な目的で使用するゆとりのスペースの確保を目指します。

## 初 等 科

#### 1. 新たな学習指導要領の円滑な実施

##### 【学習院未来計画 2021】 1. 学習指導要領改訂に対応したカリキュラム改訂

新たな学習指導要領の安定的な実施を進め、タブレット端末や ICT 機器を活用しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の 3 つの資質・能力を身につけさせる教育活動を行います。

次期中期計画に向け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還を意識した教育について、検討に着手します。

#### 2. 国際化の一層の推進

##### 【学習院未来計画 2021】 2. 国際化の一層の推進

英国チェルトナム・カレッジ・プレパラトリー・スクールへの「児童海外研修」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 3 年度も中止せざるを得なくなりました。しかしながら、児童が海外の文化等に触れる機会を確保するため、英国の私立学校との文通（6 年生全員）やオンライン・ホームステイ（6 年生 40 名）、豪州メルボルンの私立校との TV 電話交流（5・6 年生）などの国際交流を進めます。

### 3. 授業への ICT 機器導入の検討

#### 【学習院未来計画 2021】 3. 授業への ICT 機器導入の検討

全児童を対象とした 1 人 1 台のタブレット端末の導入とその効果的活用のため、ICT 機器の計画的な更新・整備を進めます。

また、昨年度から検討している活用事例などを盛り込んだ「タブレット活用ガイドライン」を効果的に活用し、父母保証人の理解を得ながら ICT による学習を推進します。

### 4. 学年主管設置の準備

#### 【学習院未来計画 2021】 4. クラス主管に加えての学年主管の設置

児童のきめ細やかな指導を目的とした、学年主管を配置する前段階としてのこれまでの取組みを踏まえ、次期中期計画に向けて、働き方改革を含めた教育指導体制の改善に向けた取組みを策定します。また、児童や父母保証人に対するカウンセリングについては、コロナ禍においても継続し、実施します。

### 5. 院内各校との連携強化

#### 【学習院未来計画 2021】 5. 院内各校との連携強化

大学理学部による「理科実験体験」や、女子大学による「エコサイエンス教室」などに参加するとともに、中等科・女子中等科長が初等科父母に話をする機会や、幼稚園父母に対して初等科長が話をする機会など、コロナ禍における院内各校との連携について、令和 2 年度と同様にオンラインの活用など工夫をしながら進めていきます。

## 幼稚園

### 1. 新しい生活様式を踏まえた上での保育内容の充実

#### 【学習院未来計画 2021】 1. 教育要領改訂を見据えた保育内容の充実

新型コロナウイルスの感染防止対策を講じ、安全を確保しながら、できる限り実際の体験を通して様々な感情を経験することができるよう、保育の内容を充実させていきます。

### 2. 教員の資質向上

#### 【学習院未来計画 2021】 2. 研究保育や園外研修を充実させることによる教員の資質向上

コロナ禍により、激減した教員のための研修・講演会などの代わりに、園内での研修をより充実させ、園児及び保護者の理解、課題の共有に努め、話し合いを繰り返しながら、更なる教員の資質向上を図ります。

### 3. 園内の自然環境の充実と目白キャンパス内の自然の活用

#### 【学習院未来計画 2021】 3. 園内の自然環境の充実

園内の自然環境整備の充実に加え、目白キャンパスの豊かで恵まれた自然に園児が直接触れる機会を増やし、四季折々の自然の中で豊かな心を育むことができるようにします。

## 4. 院内各校との交流

### 【学習院未来計画 2021】4. 院内各校との連携強化

初等科とは、運動会や合同主催の講演会などの行事等、一貫教育校ならではの取組みを実施します。高等科、女子中・高等科とは留学生と可能な限り交流し、異文化体験に触れる経験をします。女子大学とは、令和 2 年度と同様にオンラインを活用した講座への参加を進めます。

## 5. 入試広報の充実

これまで動画作成やホームページのリニューアルなど、幼稚園の魅力を発信するための方策を実施してきましたが、令和 3 年度はパンフレットをリニューアルし、幼稚園の魅力がより細部まで伝わるようにしていきます。

## 本 部 等

## 1. キャンパスプランの策定と実施

### 【学習院未来計画 2021】1. キャンパスプランの策定と実施

〈第 1 ステージ〉

#### ① 耐震未対応建物の対策推進について

##### 【目白キャンパス】

令和 2 年度前半に大学の旧東 1 号館の解体が終了し、同年度後半より新東 1 号館の新築工事に着工しています。令和 3 年度は新築工事を進めることとなります。竣工は令和 4 年度末を予定しています。

##### 【戸山キャンパス】

令和 2 年度に女子大学 4 号館・女子中高等科 B 館の耐震改修工事の実施設計が完了したので、令和 3 年度は耐震改修工事を進めることとなります。耐震改修工事の完了は令和 3 年度末を予定しています。

#### ② 目白キャンパス・戸山キャンパス桜再生計画

目白キャンパスについては、平成 29 年度に正門・記念会館付近、西門付近の樹木診断・治療を実施し、大規模植替えを行いました。次の大規模植替えは令和 4 年度を予定しており、令和 3 年度は外観診断、剪定等を実施することにより景観の維持を図ります。

戸山キャンパスについては、複数年に跨る段階的な整備を計画しており、平成 28 年度に第一期工事として、正門から女子大学 2 号館に続く通路脇の植替えを行いました。令和 3 年度は第二期工事を実施する予定でしたが、第一期工事で植樹した桜木（ソメイヨシノ）の生育が遅れており、桜並木全体として十分ではない状況にあるので、第二期工事を先延ばしします。先延ばす具体的な期間は、第一期工事の桜木の成長度を推測して概ね 3 年間と考えています。

これに伴い、第二期工事より更に 5 年後の計画である第三期工事についても、植替

えに適切な時期を検討していく予定です。

## 2. 創立 150 周年記念事業計画の検討

(創立 150 周年記念事業統括部)

創立 150 周年記念事業は、令和 4 年度から開始となる次期中期計画と連携し、事業計画を検討します。

キャンパス整備計画として工事予定されている目白地区の大学新東 1 号館は、令和 3 年度よりいよいよ新築工事が本格化します。また、令和 3 年度中に実施される耐震改修工事を経てリニューアルする戸山地区の女子大学 4 号館・女子中高等科 B 館には、館内に新たに展示室が配置されることから、今後は、学習院の女子教育等に関する展示等が期待されます。

創立 150 周年記念誌の作成については、引き続き、その詳細について関連部署と協議を行いつつ、着実に進めていきます。

また、創立 150 周年の周知・広報を目的として、シンボルマークの作成に向けた検討を開始します。

## 3. 霞会館記念学習院ミュージアム建築計画の推進

(創立 150 周年記念事業統括部)

霞会館記念学習院ミュージアム（以下、学習院ミュージアム）については、設計監理会社を選定し、基本設計に入ります。基本設計は 6 か月を予定しており、その後実施設計に進みます。この間においても文化庁から適宜指導をいただき、博物館相当施設としてのファシリティ保持に留意します。

当初、学習院ミュージアムに入る予定であった学習院アーカイブズについては、候補施設の選定や環境調査・改修の可能性について調査後、移転スケジュールや創立 150 周年記念誌作成のための場所の確保について、関係部署と連携を図りながら具体案を検討していきます。

## 4. 決裁・稟議等のルール of 整理

【学習院未来計画 2021】2. 決裁・稟議等のルールの整理（総合企画部）

令和 2 年度における検討を踏まえ、ガバナンスにおける決裁・稟議の役割と事務の ICT 化の両面から、本院の組織構成に相応しい文書管理システムを検討するために、次期中期計画に必要な事項を盛り込み、計画的かつ効率的に整備を進めることとします。

## 5. 広報の充実

【学習院未来計画 2021】3. 広報の充実（総合企画部）

高等科から幼稚園までのホームページを令和 2 年度から順次リニューアルし、スマートフォン等でも最適な表示ができるようレスポンシブ化を行っていきます。各種情報へのアクセスがしやすく、学校のイメージが伝わるなど、見る人に分かりやすいホームページを制作していきます。令和 2 年度の初等科、中等科に続き、令和 3 年度は高等科、女子中・高等科のリニューアルを進める計画です。

学校説明会やオープンキャンパスについて、令和 2 年度はコロナ禍において、オンライ

ン開催にしたり、事前予約制にしたりするなど、各学校とも感染拡大防止に努めつつ実施しました。令和3年度も、感染状況等を踏まえたうえで、有効な広報活動となるよう工夫して進めていきます。また、令和2年度は、大学が加盟した東京12大学広報連絡協議会の合同入試相談会は、新型コロナウイルス感染拡大により、全国7都市ですべて中止となりましたが、令和3年度は、コンテンツを絞り、感染防止対策を取りながら実施する予定です。

## **6. 三推進（国際化、情報化、一貫教育）事業の更なる促進のための検討**

（総合企画部）

令和4年度から始まる学習院次期中期計画と連動した国際化、情報化、一貫教育の予算・事業等の在り方について検討を進め、令和4年度からの新しいスキームでの事業開始を目的に必要な体制の整備を行います。

## **7. 次期中期計画の策定**

（総合企画部）

令和4年度からの次期中期計画のスタートに向けて、令和2年度に策定した骨子に各学校における事業計画を盛り込み、次期中期計画を作成します。また、あわせて、次期中期計画が実質的に機能するよう、PDCA体制の整備を行います。

## **8. 事務業務システムの安定運用**

【学習院未来計画2021】4. 事務業務システムの更新（総務部）

令和2年度に刷新した事務部門システム基盤環境（サーバ・ネットワーク機器・クライアントPC等）のもと、令和元年度までに完全移行した事務業務パッケージソフトの保守と併せて、新型コロナウイルス感染拡大下の学生生徒等サービス・支援体制の急激な変化に即応しつつ、システムの長期的な安定運用を期していきます。また、効率化・経費節減に向けて実現可能な現行事務業務の更なるデジタル改革を検討します。

## **9. 新たな会議の運用体制の検討**

【学習院未来計画2021】5. 災害対策の更なる強化（総務部）

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の会議において院内・院外を問わず出席が可能であるWeb会議を取り入れた運用を行ってきましたが、令和3年度以降も、新型コロナウイルス感染症への対策として、さらに今後災害時緊急事態への対策も考慮して、Web会議を取り入れた運用を続けていく予定です。また、Web会議出席者への資料共有、会議準備等業務の効率化、印刷等に係るコスト削減を図るため、Web会議と併用して、パソコン又はタブレットから会議資料を閲覧するペーパーレス会議の導入を視野に入れ、これらの会議の円滑な進行を可能とする運用体制の構築、必要な機器・ネットワーク環境等の整備に向けた検討を行います。

## **10. 職員研修の更なる充実**

【学習院未来計画2021】6. 職員研修の更なる充実（人事部）

職員研修は、これまで対面による集合研修を中心に実施してきましたが、ポストコロナに



おける研修のあり方として、研修の一部にeラーニング等の非対面による手法を組み込み、対面による集合研修のメリットを残しつつ、より効果的な研修の実施を目指します。

## 11. 働きやすい環境づくりの推進

### 【学習院未来計画 2021】7. 働きやすい環境づくりの推進（人事部）

教職員のライフスタイルの変化や多様化に応じて、性別年齢を問わずに働きやすい環境づくりを推進することを目指し、高年齢者の就業機会確保やベビーシッター利用補助制度など、必要とされる諸制度を導入するために、引き続き法令や他校・民間企業の実例について調査・検討を進めるとともに、各種会議体等での意見交換を通じて、実現可能性のあるものから順次導入します。

## 12. キャンパスプランで予定されている施設整備計画の着実な実行に向けた資金計画の立案と安定的な財政基盤の確保

### 【学習院未来計画 2021】8. 学習院未来計画 2021 の計画実現のための財源確保（財務部）

キャンパスプランに基づき、大学新東 1 号館の建設工事、戸山地区女子大学 4 号館・女子中・高等科 B 館の耐震改修工事が進んでいます。そのため、引き続き資金シミュレーションを入念に行い、必要最低限の借入を検討する等、学校経営に支障をきたさない資金計画の立案及び実行に取り組みます。

また、新型コロナウイルス感染症対策に係る費用（遠隔授業に係る設備投資等）も考慮しつつ、中長期的な財政の健全性と安定性の維持に向け、様々な財政政策の検討を進めてまいります。

## 13. 各キャンパス構内の維持整備の促進

### 【学習院未来計画 2021】9. 各キャンパス構内の維持整備の促進（施設部）

各キャンパス構内の維持整備に必要な対策として、各建物の屋外防水工事、外壁改修工事、受変電設備工事等を中長期計画として検討し、以下のとおり実施します。

なお、☆は新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和 2 年度に実施できなかったものです。

#### 【目白キャンパス】

- 東 2 号館受変電設備更新工事（2 年計画の 2 年目）
- 西 2 号館外壁改修工事（3 年計画の 3 年目）☆
- 西 5 号館エレベーター更新工事
- 南 4 号館屋上防水工事 ☆
- 南 6 号館受変電設備更新工事
- 北 2 号館外壁改修工事（2 年計画の 1 年目）☆
- 富士見会館外壁改修工事
- 大学体育館受変電設備更新工事
- 柔剣道場外壁改修工事 ☆

外壁改修工事にあわせ、屋上防水改修工事を実施します。

- 中高等科校舎外壁改修工事（6年計画の2年目） ☆
- 幼稚園受変電設備更新工事
- 特高受変電設備更新工事（5年計画の2年目）
- 記念会館外壁改修工事  
外壁改修工事にあわせ、屋上防水改修工事を実施します。

#### 【戸山キャンパス】

- 女子大学2号館外壁改修工事  
外壁改修工事にあわせ、屋上防水改修工事を実施します。
- 戸山図書館外壁改修工事  
外壁改修工事にあわせ、屋上防水改修工事を実施します。

そのほか、維持整備対策として実施する工事は、以下のとおりです。

- 目白キャンパス構内幹線道路舗装改修工事（7年計画の2年目） ☆
- 省エネルギー対策としての照明のLED化工事  
本院の照明のLED化率は、令和2年度で24.6%です。令和3年度は、3キャンパスの各所において実施を予定しており、11.0%の向上を目指します。

### 14. 「学習院未来計画 2021」 推進募金目標達成に向けた取組み

#### 【学習院未来計画 2021】 10. 学習院未来計画 2021 推進募金の実施（業務戦略渉外部）

事業計画最終年度となる令和3年度は、目標額を8億円と定め、5か年計画の募金総目標額35億円の達成に向けて活動します。

コロナ禍における従来型の募金活動は極めて困難となり、安定した寄付金収入が望めない状況に置かれていますが、ポストコロナの時代に求められるICT教育の充実や安全・安心な学びの環境を整えるため、学習院関係者に対し広く支援を呼びかける活動を展開していきます。

### 15. 創立150年史編纂に向けての基礎作業

#### 【学習院未来計画 2021】 11. 創立150年史編纂に向けての基礎作業（学習院アーカイブズ）

- ① 学習院アーカイブズ所蔵資料のデジタル化の推進ならびにデータベースの更なる向上  
学習院アーカイブズは、使用頻度が高く、保存状態の悪い所蔵資料について、デジタル化を進めています。令和3年度は、戦前期の「教務課日記」のデジタル化を予定しています。また、令和2年度より、所蔵資料の保存・利用の向上を図るため、全資料を対象とした適切な保存措置及び将来的なシステム構築のためのデータベース修正を、中長期的視野をもって実施しています。令和2年度では、アーカイブズ所蔵資料のうち、明治期から戦前までの公文書等のデータベース上の目録修正、資料保存上のメンテナンス及び年代別再配架を終了しました。令和3年度では、主に終戦後以降に作成された資料群、収集した書籍・刊行物類の目録修正及び保存のための措置、再配架を行う予定です。
- ② 学内所蔵学習院史資料の調査  
初等科には明治期以来の業務文書が多く保管されており、学習院アーカイブズと初等

科は平成 29 年度よりその調査と整理を実施してきました。令和 2 年度には、初等科に加えて中等科においても、運動会や沼津游泳ほか学校行事の資料群の調査・整理を行いました。令和 3 年度は、引き続き、初等科キャビネットに残される文書資料の整理にあるとともに、院内の他の学校に残されている資料についても、同様に作業を進め、150 年史編纂の基礎資料としていきます。

### ③ 創立 150 年史編纂に向けての体制の検討及び強化

創立 150 年史編纂の事業を実施するためには、院史資料の調査収集・整理を進めてきた学習院アーカイブズの機能強化が欠かせません。令和 9 年度の学習院創立 150 周年記念誌刊行に向けて、令和 3 年度は記念誌に使用する資料や写真の調査・整理・年表・統計作成といった基礎作業とともに、その構成・内容・編集体制を検討していきます。

## 16. 文書・資料収蔵スペースと院史展示スペースの検討

### 【学習院未来計画 2021】 12. アーカイブズ文書・資料収蔵スペースと院史展示スペースの検討 (学習院アーカイブズ)

学習院アーカイブズの新たな文書・資料収蔵スペースは、現大学図書館を改修した「学習院ミュージアム」内に設置される計画でしたが、同建物は大学史料館・大学学芸員課程によって使用される運びとなりました。そのため学習院アーカイブズは、西 5 号館地下の現学習院アーカイブズ事務室を改修し、将来に向けて文書・資料を適切に保存できる収蔵スペースを確保できるよう要望しています。令和 3 年度は改修によって必要とされる施設設備や保存環境等について、関連部署と連携を図りながら具体案を検討していきます。

## 17. 新型コロナウイルス感染症への対策

### (新型コロナウイルス感染症対策本部)

令和 2 年度以降猛威を振るう新型コロナウイルス感染症が世界的な脅威となっていることを受け、学習院においても、政府の動向を注視しながら、新型コロナ感染症対策本部を立ち上げ、休校や卒業式等の各行事の中止・縮小など様々な対策を講じました。令和 2 年度においては、遠隔授業のための必要な設備の補助として、大学・女子大学の全在學生に 6 万円を給付することを決定し、高等科から幼稚園までの各学校には、対面授業再開のための新型コロナウイルス感染症対策物品の購入等の環境整備を行いました。また対面授業実施の授業担当者向けに、新型コロナウイルス感染症に関する PCR 検査の費用補助制度を整備しました。

令和 3 年度は引き続き、刻々と変わる新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながらも、教育活動を止めることのないよう、新型コロナウイルス感染症対策本部として様々な課題に対して素早く対応・判断を行い、学生・生徒・児童・園児並びに教職員の安全確保に努めます。

学習院未来計画2021/令和3年度事業計画書 対照表

|             | 学習院未来計画2021  | 令和3年度事業計画書案  |
|-------------|--|--|
| 大学          | 1.教育支援の充実  | 1.ファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)の推進<br>2.ラーニング・サポート体制の充実<br>3.ラーニング・マネジメント・システムの一本化による教育の質の保証及び向上           |
|             | 2.語学教育を含む教養教育の見直し・再編   | 4.総合基礎科目見直しの検討   |
|             | 3.入試改革   | 5.入学者選抜制度の改革等  |
|             | 4.国際化の一層の推進  | 6.世界展開力の強化   |
|             | 5.学生生活支援の充実  | 7.キャリア教育と就職活動支援の連携<br>8.奨学金の拡充と検証  |
|             | 6.教学マネジメントの強化  | 9.教学マネジメントの確立とIR機能の充実<br>10.事務組織の見直し   |
|             | 7.研究活動の活性化   | 11.「超高齢社会への新たなチャレンジ～文理連携型<生命社会学>によるアプローチ」の推進   |
|             | 8.地域連携の拡充  | 12.地域連携の拡充   |
|             | 9.産学官連携の拡充   | 13.産学官連携の推進<br>14.研究力強化の推進   |
|             | 10.高大接続改革の推進   | 15.学習院高等科・女子高等科、並びに協定締結校との連携強化   |
|             | 11.スタッフ・ディベロップメント(SD)の推進   | 1.ファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)の推進   |
| 項目外         | 16.中長期計画の策定  |  |
| 女子大学        | 1.カリキュラム編成の見直しと教育力の強化  | 1.コロナ禍のもとでの高品質な教育の継続<br>2.新たな中期計画の策定と内部質保証システムの強化に向けた外部評価制度の導入<br>3.リベラルアーツ教育を中心とした「教育力」の更なる充実<br>4.単位の実質化のための取組みの強化 |
|             | 2.国際化の一層の推進  | 5.留学生の送出しと受入れの一層の強化<br>6.海外に触れる機会の拡充<br>7.エビデンスに基づく全学的な英語教育の強化   |
|             | 3.高大接続改革に伴う入試改革  | 8.高大連携と入試改革  |
|             | 4.企画・調査部門の充実とスタッフ・ディベロップメント(SD)の推進   | 9.戦略・IR機能の強化   |
|             | 5.研究・教育環境の向上   | 10.研究教育環境の向上<br>11.ジェンダーに係る共通理解の醸成   |
|             | 6.外部に開かれた文化活動の充実   | 12.外部に開かれた文化活動の充実  |
| 高等科<br>中等科  | 1.学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂   | 1.カリキュラム改訂に向けた科内での検討   |
|             | 2.院内各校との連携強化   | 2.院内各校との連携強化   |
|             | 3.教員の授業コマ数と教職員配置の適正化に向けた検討   | 3.教職員の連携と協力体制の構築、業務の負担軽減   |
|             | 4.国際化の一層の推進  | 4.国際化の一層の推進  |
|             | 項目外  | 5.施設の拡充  |
| 女子<br>中・高等科 | 1.学習指導要領改訂と高大接続改革に合わせたカリキュラム改訂   | 1.カリキュラム改訂に向けた科内での検討   |
|             | 2.院内各校との連携強化   | 2.院内各校との連携強化   |
|             | 3.教員の授業コマ数と教職員配置の適正化に向けた検討   | 3.教員の授業コマ数の検討  |
|             | 4.広報体制の一層の強化   | 4.広報体制の一層の強化   |
|             | 5.父母保証人のライフサイクルの変化への対応   | 5.父母保証人のライフサイクルの変化への対応   |
|             | 項目外  | 6.キャンパスの環境整備   |
| 初等科         | 1.学習指導要領改訂に対応したカリキュラム改訂  | 1.新たな学習指導要領の円滑な実施  |
|             | 2.国際化の一層の推進  | 2.国際化の一層の推進  |
|             | 3.授業へのICT機器導入の検討   | 3.授業へのICT機器導入の検討   |
|             | 4.クラス主管に加えての学年主管の設置  | 4.学年主管設置の準備  |
|             | 5.院内各校との連携強化   | 5.院内各校との連携強化   |
|             | 6.創立140周年の取り組み   | 2017年度をもって達成済み   |
| 幼稚園         | 1.教育要領改訂を見据えた保育内容の充実   | 1.新しい生活様式を踏まえた上での保育内容の充実   |
|             | 2.研究保育や園外研修を充実させることによる教員の資質向上  | 2.教員の資質向上  |
|             | 3.園内の自然環境の充実   | 3.園内の自然環境の充実と目白キャンパス内の自然の活用  |
|             | 4.院内各校との連携強化   | 4.院内各校との交流   |
|             | 項目外  | 5.入試広報の充実  |
| 本部等         | 1.キャンパスプランの策定と実施   | 1.キャンパスプランの策定と実施   |
|             | 2.決裁・稟議等のルールの整理(総合企画部)   | 4.決裁・稟議等のルールの整理  |
|             | 3.広報の充実(総合企画部)   | 5.広報の充実  |
|             | 4.事務業務システムの更新(総務部)   | 8.事務業務システムの安定運用  |
|             | 5.災害対策の更なる強化(総務部)  | 9.新たな会議の運用体制の検討  |
|             | 6.職員研修の更なる充実(人事部)  | 10.職員研修の更なる充実  |
|             | 7.働きやすい環境づくりの推進(人事部)   | 11.働きやすい環境づくりの推進   |
|             | 8.学習院未来計画2021の計画実現のための財源確保(財務部)  | 12.キャンパスプランで予定されている施設整備計画の着実な実行に向けた資金計画の立案と安定的な財政基盤の確保   |
|             | 9.各キャンパス構内の維持整備の促進(施設部)  | 13.各キャンパス構内の維持整備の促進  |
|             | 10.学習院未来計画2021推進募金の実施(募金部)(※注)   | 14.「学習院未来計画2021」推進募金目標達成に向けた取組み  |
|             | 11.創立150年史編纂に向けての基礎作業(学習院アーカイブズ)   | 15.創立150年史編纂に向けての基礎作業  |
|             | 12.アーカイブズ文書・資料収蔵スペースと院史展示スペースの検討(学習院アーカイブズ)  | 16.文書・資料収蔵スペースと院史展示スペースの検討   |
| 項目外         | 2.創立150周年記念事業計画の検討<br>3.霞会館記念学習院ミュージアム建築計画の推進<br>6.三推進(国際化、情報化、一貫教育)事業の更なる促進のための検討<br>7.次期中期計画の策定<br>17.新型コロナウイルス感染症への対応 |  |

※注) 募金部は平成30年4月に業務戦略渉外部に名称変更を行いました。